



みどり



64号『脊椎疾患②変形性頸椎症』

2013年7月1日発行／編集責任者 田中 眞／毎月1日発行／群馬県藤岡市篠塚105-1
<http://www.shinozuka-hp.or.jp/center/>

脊椎を構成する頸椎，胸椎，腰椎，仙椎のなかで，頸椎に変性を来す疾患，「変形性頸椎症（けいついしょう）」が今月のテーマです．別名で「頸部脊椎症」「頸椎症」とも呼ばれます．

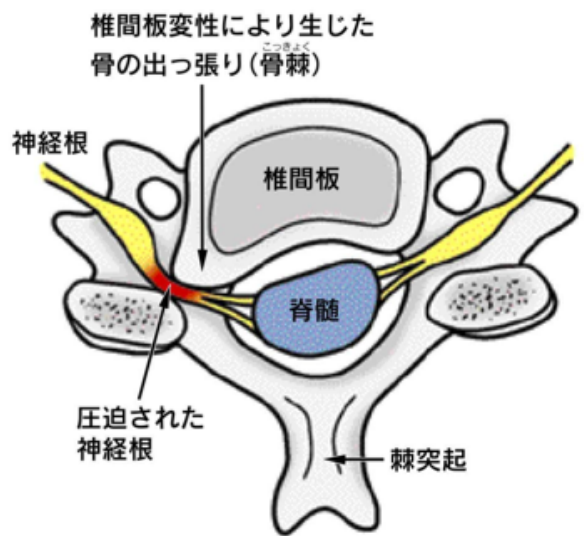
頸椎症とは？

頸椎は脊椎の中で最も可動性が高く，上下左右，回旋など様々な方向へ動かすことができます．であるが故に，椎骨，椎間板や靭帯は加齢に伴い変性，変形していきます．それに伴い椎間孔や脊柱管が狭くなり，そこを通る末梢神経や脊髄が圧迫，しびれなどの感覚障害や手の動かしにくさなどの運動障害が出現します

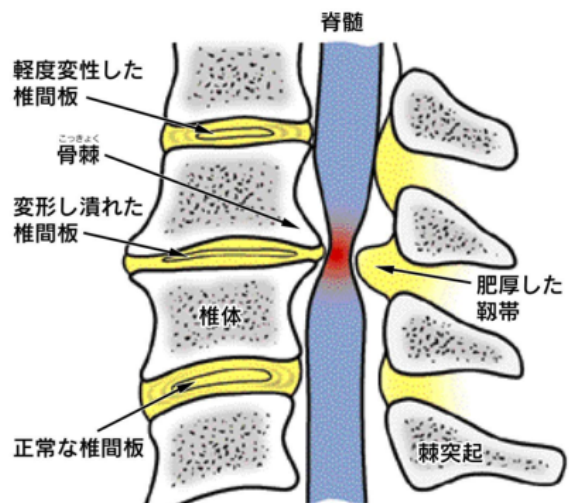
図1に頸椎症でみられる変化を示します．椎間板は変形し厚みを失います．特に脊髄の通り道である椎間孔や脊柱管の方へ突出すると神経根や脊髄を圧迫します．椎骨どうしをつなぐクッションの役割をしていた椎間板の柔らかさが失われると，摩擦により椎骨が変形して“骨棘（こつきょく）”と呼ばれる出っ張りが生じます．これもまた神経根を圧迫する原因となります．また，椎骨を縦方向につなぐ靭帯も加齢により肥厚し，脊柱管を狭くする原因となります．

頸椎症の症状は？

頸椎症の症状は，障害の程度や部位により大きく3つに分けられます（表1）．



a. 頸椎症性神経根症



b. 頸椎症性脊髄症

(日本整形外科学会HPより)

図1. 変形性頸椎症の模式図

表 1. 変形性頸椎症による症状

①局所症状

- ・首・肩付近の痛みや肩こり：首を動かすと痛みが増強する。

②【頸椎症性神経根症】

- ・主に片側の首から肩，腕，手にかけての痛み，しびれなどの感覚障害。
- ・手に力を入れにくくなる。

③【頸椎症性脊髄症】

- ・両側の手足のしびれなどの感覚障害。
- ・手指の巧緻運動障害。
- ・排尿機能の障害。

とくに問題となる神経症状は2つに分けられます。すなわち，脊髄から出た神経根の圧迫による症状が主体である「頸椎症性神経根症」と，脊柱管が狭くなり脊髄が圧迫されて起こる症状が主体である「頸椎症性脊髄症」です(図 1-a, b)。

頸椎症性脊髄症の症状として特徴的なものに，手指の“巧緻運動障害”があります。“巧緻運動障害”とは，日常生活で行う細かい動作が上手にできなくなることを指し，具体的には箸を使う，ボタンをかける，字を書くなどの動作に不自由を感じます。巧緻運動障害の評価法に“10秒テスト”と呼ばれるテストがあり，10秒間に手の開閉（グーパー）を何回できるかを調べます。通常は25回以上可能で，20回以下は巧緻運動障害が疑われます。ただし，巧緻運動障害は頸椎症性脊髄症以外の病気でもおこる症状ですので，結果の解釈には注意が必要です。

頸椎症の診断は？

上述した症状に加えて，頸部の単純X線写真やMRIなどの画像検査が診断の助けとなります。

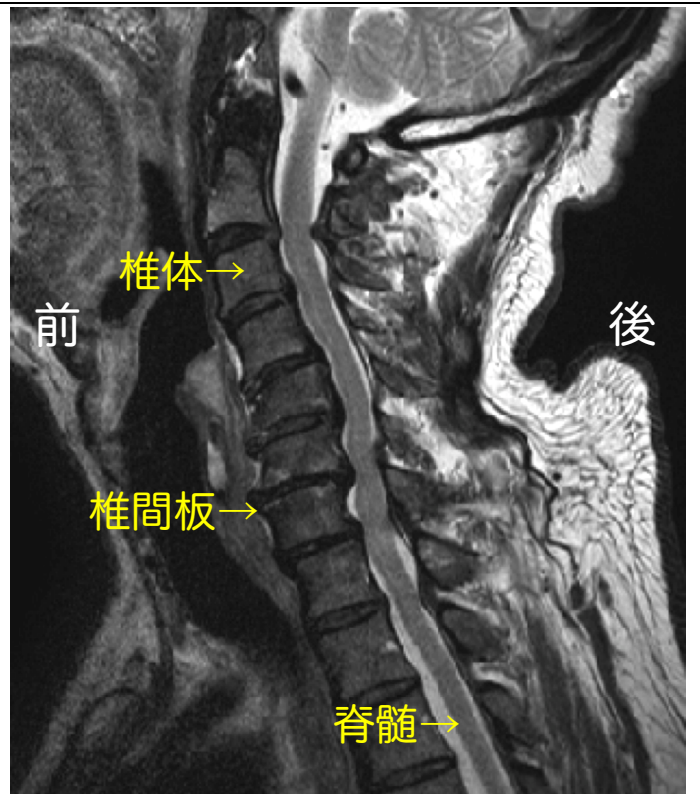
単純X線像では，脊柱管の前後径，骨棘形成，椎間孔の狭小化，頸椎の不安定性の有無を確認します。

MRI では椎間板の脱出，黄色靭帯の肥厚の有

無に加えて，脊髄の圧迫の程度や圧迫による脊髄浮腫の有無を見ることができます(図 2)。

頸椎症の治療は？

まずは安静などの生活指導，鎮痛剤などの投薬といった保存的治療から開始します。外科的治療は症状の程度によって考慮されます。目安として神経根症では上肢の強いしびれ，脱力や筋の萎縮を来した場合に，脊髄症では手指の巧緻運動障害，歩行障害，排尿障害などにより日常生活に大きく支障をきたしている場合です。そのほか年齢や合併症なども考慮され，患者さんごとに手術適応の有無が検討されます。



(T2 強調像，矢状断)

- ・頸部を横から見ています(図 1-b 参照)。
- ・頸椎の整列が不正です。椎間板の変性や靭帯の肥厚がみられます。それに伴い脊髄の通り道(脊柱管)が狭くなっています。

図 2. 変形性頸椎症の MRI

(文責：金子 由夏)